

村絵図から復元する江戸時代の山田村②

岡垣歴史文化研究会 石田 健次

山田村絵図面には、福岡藩の主要街道の一つである唐津街道が村内を南北に縦断している様子が描かれている。赤間宿から峠を越え上畑村、海老津村内を通ってきた唐津街道は、現在の東部公民館付近から山田村に入る。山田村はこの唐津街道沿いの山間に開けた村である。

【ため池と絵図作成年】

絵図には灌漑用のため池として、長原堤、なべた堤（現在の鍋田ため池）、山ノ後堤（現在の一丁ため池）、茅原堤の4カ所が描かれている。絵図の作成年は不明であるが、長原堤が、1748（寛延元）年と1834（天保5）年に築造されている。しかし、後年に築かれた堤は絵図には描かれていない。このことから、この絵図は江戸時代（1834年より前）に作成されたことになる。また、なべた堤は、1641（寛永18）年に築造されており、築造記録が残るため池としては、岡垣では一番古いものである。山田村は、これらのため池と矢

矧川はなからの灌漑用水により農業生産が拡大し発展してきた。

【唐津街道の松並木】

絵図には唐津街道の両側に松並木が規則正しく描かれている。この絵図が作成されたころには松の大木が見られたのではないかと想像される。絵図の松並木は、現在の山田橋で途切れており、山田橋から糠塚村に至る街道沿いには何故か一本も描かれていない。並木が植えられなかったことの原因として、この間の街道の両側には田畑が続いており、並木による農作物への日照の影響が考えられたのではないかと思われる。

街道沿いに植えられた並木は厳重に管理され、藩の公用のためであっても伐採は禁止されていた。

【一里塚】

絵図には岡垣では唯一となる一里塚の様子が描かれている。唐津街道に設置さ



▲唐津街道の松並木と一里塚

れたもので、塚が対になって造られているのが分かる。場所は現在の山田小学校西側の道沿いである。

一里塚の設置は、江戸幕府が1604（慶長9）年に日本橋を起点として全国の街道に一里（約4キロメートル）ごとに5間（約9メートル）四方の塚を造るよう命じて進められたものである。塚には松や榎の木などが植えられており、街道を行き交う旅人の目印や休憩場所でもあった。

この絵図にある一里塚は、1605（慶長10）年ごろの筑前国絵図でも確認できる。1876（明治9）年に明治政府が「各街道の無益な一里塚を撤去し、土地を払い下げてもよい」との通達を出しているため、これまではこの一里塚は存在していたと思われる。一里塚が築かれてから270年以上にわたって旅人を見続けてきたことになる。

【茅原と大日堂】

絵図には山田村の枝村である茅原が描かれており、4戸の人家と大日堂が見える。大日堂は現在も残っており大切に祀られている。



▲茅原と大日堂

唐津街道から分かれてこの茅原に至る道の途中には矢矧川が流れているが、絵図には橋が描かれていない。おそらく板橋か丸太橋のような簡易な橋が架かっていたのではないかと思われる。また、唐津街道に架かっていた今の山田橋は、伊能忠敬の測量日記（1813（文化10）年）では石橋と記されている。

次回へ続く